

ゴ ミ ゼロ 5 3 0 レポート

第39号 2004年11月30日 発行

編集と発行 530運動環境協議会

〔豊橋市今橋町1番地 豊橋市役所環境政策課内 電話(0532)51-2414〕

〔URL <http://www.530.toyohashi.aichi.jp>〕

〔E-mail 530@city-toyohashi.jp〕



9月18日に開催した環境市民530大集会(フリーマーケットでの一場面)

今年も環境市民530大集会を開催しました。

530運動環境協議会会員によるブース出展のほか、記念講演会、530フェア(ミニゲームなどのイベント)、フリーマーケット等、盛りだくさんの内容でした。午前中に降った激しい雨にもかかわらず、大勢のお客さまに来場していただきました。

写真はフリーマーケットの一場面です。家庭内で眠っている不用品を、それを必要とする方に安価で購入してもらうことで、廃棄物の減量につなげたいという主旨で開催しています。ごみを減らそうという意識を家庭内から育てることで、もっと環境にやさしい街豊橋になってほしいという願いを込めて。



目次

豊橋の公園とごみ箱について.....	2
幼児用環境教育を実施しました.....	3
豊橋市リサイクルステーションについて.....	3
530運動実践活動について	3
会員紹介コーナー.....	4
編集後記.....	4

豊橋の公園と ごみ箱について



今年8月に、市内全23中学校の代表生徒が参加した「市長さんと語ろう会」が開催されました。その中で「豊橋の公園にはごみ箱が少なすぎるので、ごみがたくさん落ちている。ごみ箱をたくさん置いてください。」という意見が出て、ほぼ全員の生徒がこの意見を強く支持しました。これに対し、早川市長は530運動環境協議会に相談し回答することでその場をまとめ、後日石井会長に意見を求められました。

この件に対し石井会長は、早川市長あてに回答書を提出し、生徒らにもその内容が通知されたとのことです。回答書は長文でしたので、ここではその要約を掲載させていただきます。

【石井会長の回答の要約】

- ・みなさんの公園をきれいにしたいという気持ちは大いに感謝したいと思います。
- ・豊橋の530運動は「自分のごみは自分で持ち帰ろう」がテーマであり、ごみを持ち帰って減らそうという考え方を進めるために市内の公園のごみ箱を撤去してきた経緯があります。
- ・しかし、その善意はすべての市民には伝わらず、一部の不心得者によるごみのポイ捨て行為は一向に変わりません。
- ・規則等で取り締まることも必要だとは思いますが、悪いことをした人を注意する市民の声が一番大切であり、その勇気によって美しい街豊橋を実現していきたいと考えています。

では、実際の公園の状況を見てみましょう。写真は今年10月に開催された豊橋まつり開催中の豊橋公園の様子です。豊橋まつりでは公園内に特別にごみ箱が設置されています。ごみはほぼルール通り片付けられていますが、その量は多すぎるのではないのでしょうか。



さて、ここで考えてみてください。みなさんが望む「美しい街豊橋」とは、単にごみが落ちていない街にすることでしょうか。

530運動は文字通りごみがゼロの社会を目指すもので、まずごみ拾いで身の回りの環境をきれいにし、さらには生活の中で省資源・省エネルギー・リサイクル等を実践することですべてのごみをゼロにして、美しい街豊橋を実現することにあります。これは豊橋で530運動が提唱されて以来、市民の手によって実践されつづけてきたことですが、ごみゼロ社会は未だ実現には至っていないのが現状です。それでもこの530運動の考え方は、全市民が参加・実践しやすく意義も大きなことであるので、豊橋の公園にはごみ箱を設置しない方針の根拠ともなっているのです。

530運動が豊橋で昭和50年に生まれて来年で30周年を迎えます。当時を知らない中学生にとっても、長年530運動に携わってきたおとなにとっても、530運動の原点を見つめ直す良い機会になるのではないのでしょうか。





幼児用環境教育を実施しました

530 運動環境協議会では、幼児用環境教育ビデオを作製するなど幼児向け環境教育に力を注いでいます。こどもたちの環境意識を向上することで、未来の豊橋がもっときれいになることを目指しています。

平成16年度は6月から9月にかけて市内38の幼稚園、保育園を回り、延べ4,600人の幼児にごみのポイ捨てはいけないことだということを伝えてきました。授業内容は、特製の教材によるごみの分別方法とリサイクルの意識付けをテーマにしたクイズと、昨年度作製した530運動キャラクター「トントン」が登場する環境教育ビデオ(第38号で詳しく



紹介)の視聴の2本立てで構成されています。

クイズは、3分別のごみ箱(豊橋市ではごみの7分別を実施していますが、幼児説明用に「もやすごみ」「プラスチックごみ」「ビンカンボックス」の3分別としました)とごみのモデルを見せて、先ず講師が子供たちに分別の仕方を教え、続いてパネルで作った『元気君(人形)の部屋』の散らかっている様子を見せ、そのパネル上にマジックテープで貼り付けたごみをこどもたちに実際に分別して捨てるシナリオです。また、ごみ箱に入れたごみは新しい物として生まれ変わることを、実際にリサイクルされた製品を見せて、教えています。おとなには敬遠されがちなごみの問題もこどもたちは素直に受け入れられ、食い入るようにパネルを見て、一生懸命考えていました。

なお、教材で使用したビデオは530運動環境協議会事務局で貸し出しを行っていますので、是非ご利用ください。

豊橋市リサイクルステーションについて

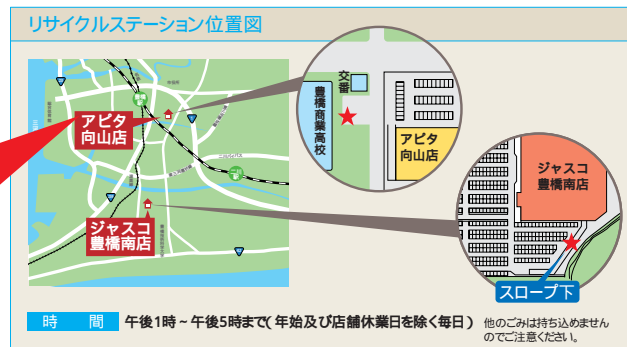
豊橋市では廃棄物を削減する取り組みをしていますが、中でも家庭から出るごみを削減するように市内に2ヶ所リサイクルステーションを設置しています。みなさんは利用したことがありますか?

リサイクルステーションでは、家庭で不要になった古紙(新聞、広告チラシ、雑誌、ダンボール、紙箱、牛乳パック)と布類(天然繊維、化学繊維製のすべての衣類、シーツ、カーテン、タオル等)を回収しています。

なお、リサイクルステーション



ションでは事業系の廃棄物の回収は行っておりませんのでご注意ください。その他、リサイクルステーションに関するお問合せは豊橋市役所環境政策課(☎0532-51-2414)までお願いします。



530 運動実践活動について

今年も市内一斉で春と秋の530運動実践活動を実施しました。春は5月29日から6月7日まで、秋は9月18日から27日までの各10日間を実践期間として活動し、春は延べ約10万人、秋は延べ約6万人の市民の皆さまにご協力をいただきました。

本年度は、冬の530運動も実施します。2004年愛・地球博の開催53日前となる1月29日から2月7日までの10日間を中心期間に、世界から愛知県へ訪れるお客さまを迎える意味で実施しますので、みなさまのご協力をお願いします。



会員紹介 コーナー

今回は、地域の廃棄物事業に関連した団体である東三河廃棄物処理事業協同組合の皆さんの取り組みと、番外として市内の大学生が自ら企画運営するサマーカレッジチャレンジショップ実行委員会の皆さんの活躍をご紹介します。

東三河廃棄物処理事業 協同組合(西幸町)

「地域に密着した廃棄物に関する 活動をしています」

東三河廃棄物処理事業協同組合は、昭和44年に結成以来、東三河地区に廃棄物処理、各種清掃工事及び施設管理等の廃棄物に関連した事業を営む企業が集まった団体であります。

地球環境の保全、循環型社会の構築を基本とした業務に関わるプロとして、地域及び社会に貢献し、環境事業並びにリサイクル事業に積極的に取り組んでおります。

530運動環境協議会の会員として、同会が定期的に行っている豊橋駅東口ペDESTリアンデッキにおける駅前クリーンアップ大作戦に参加させていただき、その中で当組合が清掃活動のゴミ回収の他、通路、広場等に付着したガムの多さに着目し、専用の機械を使用し除去しております。ポイ捨てゴミの中にもこの様なゴミ(ガム)も多数あり、一部の心無い方々と思われませんが、豊橋の顔である豊橋駅及び公共施設への少しの気遣いを持って頂きたいと痛切に感じました。

これからも当組合は、地域に密着し、恵み豊かな環境を次の世代に引き継ぐために、積極的に530運動の普及、530運動実践活動に取り組み、廃棄物に携わる団体として皆さまと共々活動を続けてまいりたいと思います。



(廃棄物等のご相談も当組合にお尋ねください。
☎0532-37-9811)

2004年度サマーカレッジ チャレンジショップ実行委員会

会長 おいだ 種田佳洋(豊橋技術科学大学)

「530運動に参加しました」

今年度サマーカレッジチャレンジショップのテーマを「愛 know 豊橋」とし、豊橋の良いところを知ってもらいたいという考えのもと、活動していた私たち実行委員会のメンバーは、豊橋が発祥地の530運動とチャレンジショップをリンクさせ、清掃活動と同時にチャレンジショップの認知度向上を目的に参加させて頂きました。

普段何気なく歩いているまちなかに目を向けてみるとタバコの吸殻や空き缶、空き瓶等、ゴミが多く存在しました。ゴミ袋に短時間でゴミが貯まっていく状況を見て、常に清掃活動が必要な状況にあると感じました。

私は歩道等にゴミがまったく無く530運動を行わなくても良い状況になることが一番の理想であると思います。その理想に近づくためにも、日頃から530を意識し、道端にゴミを捨てないのはもちろんのこと、目に付いたゴミを拾う習慣を持つ人が多くなることで530なまちが生まれるのではないのでしょうか?みなさんも530運動発祥地として恥ずかしくないまちなみを形成するためにも530運動に参加しませんか。



編集後記

幼児向け環境教育の授業が終了した後に聞いた話ですが、家に帰った“幼児”が家族に対し、ごみの分別、リサイクル、ごみのポイ捨てはダメだよ等、しっかり指導した家庭は少なからずあったそうです。こどもたちは、良いことと悪いことの区別をおとな顔負けにできるようです。おとなたちは、しっかり見られているという意識を持って、常にこどもたちのお手本でなければいけないと改めて教えられた出来事でした。